

南高☺図書館通信

さいたま市立浦和南高校図書館
2021年7月発行
Vol.3 ★ No.1
不定期発行

☆ 図書館からのお知らせや、図書館の活動・仕事をお伝えします ☆



一学期が終わります。制限のある生活がまだ続きそうですが、心を休ませて、元気をチャージしてくださいね。

夏休みの図書館について

夏休み中（7/21（水）～8/31（火））、図書館は以下のとおり開館します。学習などに利用してください。

開館時間 … 8:30～16:30
休館日 … 土・日・祝休日、8/10（火）～17（火）*
貸出冊数 … 7/7（水）～夏休み中 → 10冊
返却日 … 7/7（水）～8/18（水）貸出 → 9/1（水）
8/19以降貸出 → 2週間後

*変更される場合があります



学期末です。借りている本の返却が遅れている人は、早めに図書館に返してください。続けて借りたい場合は、再度貸出の手続きをしてください。気持ちよく夏休みを迎えましょう！

ビブリオバトルを開催しました！

2年ぶりに、図書委員によるビブリオバトルを開催しました。5月21日に3年生、7月7日に2年生が実施しました。マスクをしっかりと着用しての発表です。チャンプ本は以下のとおりとなりました！

3年生 チャンプ本 ☆『神様の御用人』 浅葉なつ 著 KADOKAWA
2年生 チャンプ本 ☆『青の炎』 貴志祐介 著 角川書店
(同点2冊) ☆『聖なる怠け者の冒険』 森見登美彦 著 朝日新聞出版

チャンプ本は図書館に入っています。ぜひ読んでくださいね！



ビブリオバトルとは？ 本の紹介ゲームで、参加者（バトルー）が制限時間内に好きな本を紹介し、その後の投票で一番読みたいと思った人が多い本が「チャンプ本」となります。

書架が増えました！

新しく書架（棚）を増やしました。コピー機の横です。お気付きの人もいるでしょうか。日本の小説の並びに置いていたコミックをその棚に移し、その分小説のスペースが増えました。また、ライトノベルの一部も移しています。スペースに限りはありますが、本を増やしながらか、より見やすい書架をめざしています。

さいたま市図書館「リブサポ」に参加しよう

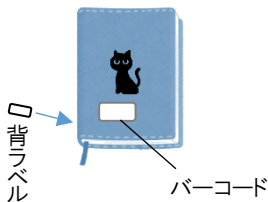
図書室にチラシがあります

さいたま市図書館では、夏休み中に活動する中・高校生ボランティア「リブサポ」を募集しています。内容は本の修理やPOPカードづくりなどさまざま。さいたま市図書館ホームページや、図書館に置いてあるチラシを見てください！

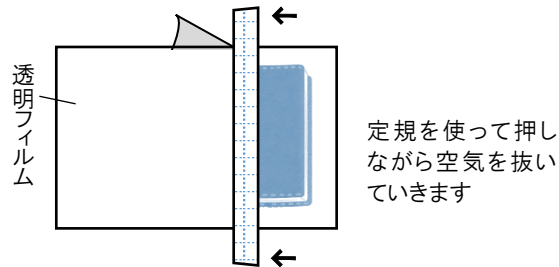
こんな仕事をしています ⑦ 本の装備

図書館の本は長い間多くの人が使います。購入した本は管理に必要なバーコードや背ラベルを貼ったあと、傷まないように透明フィルムをかけて保護します。このことを「装備」と言います。

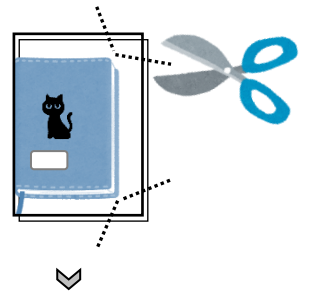
1 本に背ラベルとバーコードを貼る。



2 本の大きさに合わせた透明フィルムを用意し、裏紙を剥がしながら本に貼っていく。



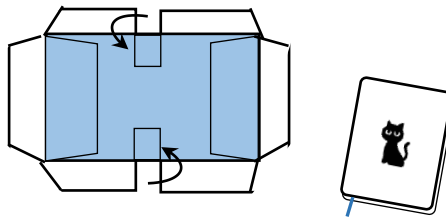
3 角を切り落とす。



6 本をカバーに戻し、はみ出たフィルムを内側に折って接着する。



5 本のカバーと本体を離し、上下のフィルムを折って本のカバー内側に付ける。



4 背の上下のフィルムに切り込みを入れる。



みんなの本棚 ～世界を知る 世界で生きる～

『ヒマラヤに学校をつくる』

吉岡大祐 著 旬報社 372㉟

アメリカで暮らしたいと考えていた鍼灸師の著者は、偶然のきっかけでネパールへ渡ることになります。のんびりしたネパールですが、同時に差別的な階級制や激しい女性蔑視、厳しい貧困が存在しました。その状況を目の当たりにした著者は貧しい子どもたちへの教育支援活動を始め、いつしか学校の開校を目指すようになります。

最初は何もなくても、熱意と努力で多くの人を救うことができます。

『なんにもないけどやってみた』

栗山さやか 著 岩波書店 916㉟

渋谷の元ショップ店員による、アフリカの医療施設でのボランティアの記録です。ギャルと呼ばれる容姿で働いていた彼女は20代で親友を病気で亡くし、それから人生の残り時間の使い方について考えるようになります。その後アフリカ大陸へ飛び込んだ彼女が目にしたのは、何の罪もない若い女性がHIVなどの病気に侵され十分な治療を受けられずに亡くなっていく現実でした。現地の惨状が伝わると共に、彼女の献身的な奉仕が心を打ちます。

『いま生きているという冒険』 石川直樹 著 理論社 290㉟

高校2年生の夏休みに一人でインドを旅した著者。それから世界への旅が始まりました。アラスカの登山、北極から南極への地球縦断、チョモランマの頂上、ミクロネシアの離島での伝統航海…。普通では成し得ないような体験談が魅力的です。そして最後に、本当の冒険とは何か、著者の思いが語られます。